

ある日の育児日記から

(66)

佐藤 和代



圭は一年生。このごろ、保育園の時の友だちと会うと、親同士の話題は我が子の失敗談ばかり。親も子も新米ですから、忘れ物や勘違い、笑える話にはことかきません。その中から二つほど。

その一 M君。朝、教室にはいったら、前の黒板の「きょうおやすみのひと」のらんじに、自分の名前がありました。自分は今日は休み! と思ったM君、そのまま帰ってしまいました。あわてたお母さんが電話すると、先生が違う子と名前を間違えていたとか。

その二 Kちゃん。一年生になって大はりき

り、毎朝、家で一番はやく起きて、学校へも一番のり。ある日「ママ起きて! もう行かなきゃ!」とお母さんを起こしました。寝坊したかとあわてて起きたお母さん、急いで朝食を食べさせ、送り出してからホッとして時計を見ると……6時半。しばらくしてKちゃん、「門があいてない」と泣きながら帰ってきました。



おてまつないで学校へ。何だかほっかしい光景です。

さて、圭はというと、私が仕事を休んだ日、圭

は「圭も休みにする」。学校は保育園と違うの、お母さんがいるからって休めないの、と説明すると、「えっ知らなかった、ホント?」

こらこら。

本当よ!